

観明寺寛文元年庚申塔

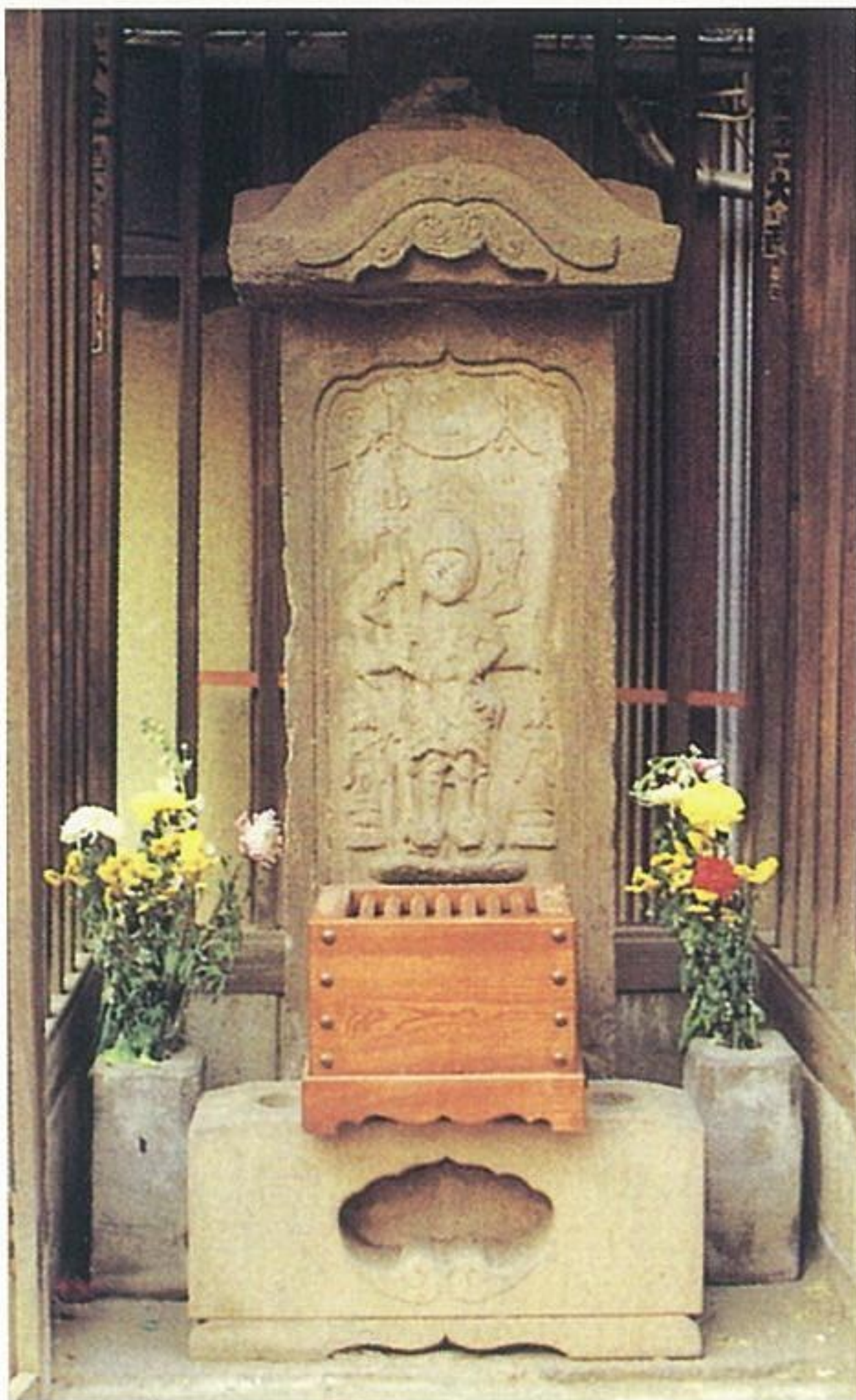
(かんみょうじ かんぶんがんねん こうしんとう)

板橋区指定有形文化財(歴史資料) 昭和59年2月22日指定

旧下板橋宿にある観明寺は、如意山と号する真言宗の寺院です。現在当寺の境内にあるこの庚申塔は、寛文元年(1661)の紀年銘があり、区内で一番古く、その正面には青身で多臂の忿怒形をともなう青面金剛像が刻まれています。なお、青面金剛像が刻まれた庚申塔としては、都内で最古のものとなっています。

庚申塔は、庚申待の供養のために造立された塔で、十五世紀に南関東で庚申待板碑として出現しています。庚申信仰は、「かのえさる」の日の信仰であり、平安時代に宮廷で正月庚申の夜の徹夜行事として行われています。その源流には諸説ありますが、中国の道教の教えに、庚申の夜に人体に棲む霊物である三尸が人の過失を天帝に報告するというものがあり、その報告の機会を与えないために徹夜をする「守庚申」に求める考え方があります。

なお、当像は190cmに及ぶ大きさがあり、左面には願主である豊田八兵衛などの平尾を中心とする人名が確認されるなど、当時の下板橋宿が持つ経済力の一端がうかがわれます。



所在地：板橋区板橋 3-25-1

交通：都営三田線「板橋区役所前」駅
徒歩5分

JR埼京線「板橋」駅 徒歩15分